

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことについては、正答率が高い。 ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
	よくできた問題	・【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして、適切なものを選択する問題（2ー(2)）
	努力が必要な問題	・【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く問題（2二）
算数	全体的な傾向や特徴など	・直方体の見取図について理解し、かくことについては、正答率が高い。 ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することや、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することに課題がある。
	よくできた問題	・作図途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ問題（3(1)）
	努力が必要な問題	・家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題（4(3)）

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 ・「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。 ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「教えたから、子どもが学んだ」ではなく「子どもが学べたから、教えたことになった」という捉えて、日々の学習指導に取り組む。
- 「文化的理解と実用的活用を図る国語科学習の創造～教材の意義に迫る手だての構築を目指して～」のテーマで校内研究を推進し、授業公開で授業改善に向かう共通実践に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習への働きかけ
 - ・学校通信等で家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を10分×学年とし、その時間につり合う課題を与える。
- 全国学力・学習状況調査の結果、及び分析内容の保護者への周知
 - ・学校通信、学校ホームページ等で発信する。